

園だより

第 11 号

平成 31 年 1 月 31 日

ばんけい幼稚園



年賀の挨拶から子育ての時代を思う

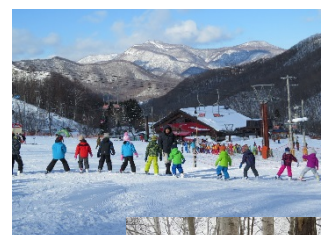
園長 馬見 雅子

2019年、平成31年が明けました。今年新しい元号となります。新しい時代が、子どもたちにとって、平和で充実した人生を生きることができるものであって欲しいという願いを強く持つ年となりしました。今年も子どもたちが健やかに成長していけるよう、保護者の皆様と一緒に子どもたちの育みに携わりたい、子どもたちと一緒に元気に楽しく過ごしていきたい、と職員一同思っております。どうぞよろしくお願い致します。

今の若い世代ではやり取りがだいぶ少なくなった年賀状ですが、私の年代ではまだ多く、年に1度、卒園児の方が元気に成長されていることを知らせていただいたり、もう何年も（中には何十年も！）会っていない古い友人や知り合いと近況を知らせ合ったりする機会になっています。この年代になりますと、写真入りの年賀状はほとんどなくなり、「子どもが社会人になりました。」「家族それぞれのペースで生活するようになりました。」「子どもも独立し、のんびりと生活しています。」といった言葉が添えられるものも多くなってきました。子育ても一段落、といった時期が訪れたようです。自分が年を重ねたこと、そしてここまであつという間であったことの実感と共に、子育てに奮闘した日々、幼い子どもたちとの楽しかった日々、それらの子育ての時代を懐かしく、自分自身のかけがえのない時代であったという思いが、私を始めとして共通してあるように感じます。

今、子育て時代の真ただ中にある保護者の皆様は、日々子育てに奮闘中だと思います。大変なことも多いと思いますが、子育ての時間は意外にあつという間です。そんなことを心の片隅に置きながら、お子さんとの関わりや子育てを楽しむ気持ちを忘れずにいていただけたらと思います。

さて、教師・職員たちはいつも素晴らしい子育ての時代に身を置くことができる立場ですね。2学期、大きな行事や日々の園生活を通して、あか組、みどり組、あお組それぞれの育ちの中で多くの面が成長してきたことを教師間で話し合いました。3学期は雪との関わりが園での遊びの柱となります。あお組はスキー活動、みどり組・あか組は園舎前や園舎周辺の山での雪遊びを通して、自立の心や友達と力を合わせたり共に楽しんだりすること、乗り越えて頑張り自信を持つこと等、多くの育ちに繋がるよう関わっていきたいです。寒さに負けずたくさん遊び、心も体も一回り大きくなって欲しいと思っています。



幼稚園での食育

大久保 記久恵

長い冬休みの間、年越しやお正月があり子どもたちも家族や普段なかなか会えない親戚の方々とゆっくりと楽しい時間を過ごしたことと思います。その中で食べた年越しそばやおせち、雑煮の「行事食」について意味や願いがあることを家庭で子どもたちに伝えていくことが、食育では大切だと言われています。

食育基本法の中で幼稚園における食育とは

- 子どもの健全な食生活の実現と心身の成長を図るための食事指導
- 地域の特色を生かした学校給食の実施や農場などでの体験や料理体験

ばんけい幼稚園では、自分たちで作物を育て収穫し調理をして友達と一緒にいただく経験をしています。この活動を通して作物の成長を楽しみに世話をしたり、自分が育てて収穫した野菜だから、自分が調理した物だから、みんなと一緒に食べるからと苦手な野菜に挑戦したり、食べられるようになったり、、、と大切な活動のひとつとなっています。

毎日のお弁当やおやつの時間もお腹を満たすだけの時間ではなく「いただきます」という言葉とともに命をいただいていることへの感謝の気持ちを育む大切な時間となるよう

「食べ物を粗末にしない」「食べる姿勢や箸の使い方」を確認しています。

食事は友達とのコミュニケーションを深める場でもあるので

「食べ物を口に入れたまま話さない」「立ち歩かない」「食事中は大きな声で話さない」

など食事のマナーを伝えています。

食事の作法や食に対する感謝の気持ち、コミュニケーション能力を身につけるのは社会の一員となる基礎的な人格を養うための第一歩だそうです。それらを学ぶ場が家庭や幼稚園です。楽しい食事の時間を通して食事の作法やマナー、日本の食文化を伝えていきたいと思います。